



カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

第1部：DIYの芸術表現

ポピュラーカルチャー（大衆文化）とハイカルチャー（“高尚”文化）の上下関係は、いまや世界的に消えつつあります。テクノロジーが進歩し、専門的な機材が安価になってきたこともあって、アマチュア的な表現手法と、プロとは異なる独特な作風が芸術文化の世界で市民権を得つつあります。「偶然」を前提にし、失敗・不完全さ・間違いなどを許容する創作活動。その中では、作品の良し悪しは、どのような基準で評価されるのでしょうか。

第2部：演劇が街に出るとき

昨今、舞台芸術のありようが大きく変わろうとしています。受身の観客を単に楽しませるのではなく、今日的な主題について、作者や演出家や出演者とともに、アクティブに考えさせようとしているのです。その結果、演劇が劇場の外に出てゆくケースが増えてきました。公共空間において社会的なプロジェクトへの参加を促そうというわけですが、このやり方はうまく機能するのでしょうか。演劇は新しい社会的役割を果たすことができるのでしょうか。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツ人芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



主催・お問い合わせ

Goethe-Institut Villa Kamogawa

京都市左京区吉田河原町 19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)

info@villa-kamogawa.goethe.org

www.goethe.de/villa-kamogawa



〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください)



レーナ・ヴィリケンス (音楽家)

Lena Willikens (Musikerin)

1977年生まれ。デュッセルドルフとベルリンで美術を学んだ後、DJとして国際的に活動。自身のラジオショー番組を毎月持つほか、グラフィックデザイナーとして映画やTV番組にも携わる。



ザラ・チェスニー (美術家)

Sarah Szczesny (Bildender Künstler)

1979年生まれ。デュッセルドルフで美術を学んだ後、ドイツを中心に数多くの個展やグループ展で作品を発表。2015年よりプロジェクト「Phantom Delia Video Series」でレーナ・ヴィリケンスとコラボを行う。

ヴィラ鴨川滞在中、ヴィリケンスとチェスニーは地域の音楽を調査し、音楽・映像・立体作品・パフォーマンスなどをコラボしたプロジェクト「Phantom Kino Ballett」を発展させる予定。



江村 幸紀 (音楽プロデューサー、文筆家、DJ)

Koki Emura (Musikproduzent, Autor, DJ)

世界中にファンがいる音楽探究型レーベル『エム・レコード』主宰。実験的ともいえるクロスジャンルのリリーススタイルは海外でも模倣され、「insider's favorite」「レーベルの最高裁」「日本一根性のあるレーベル」と評される。法人組織ではなく個人商店の形でDIYを実践し、1998年から200枚近くの作品を発表している。emrecords.net



呉山 タ子 (音楽家)

Yuko Kureyama (Musikerin)

2002年～2015年まで大阪の5人組ガールズロックバンド「water fai」のギター担当を務め、「2004-2006」「UNI 8」などのアルバムを発表。2015年、ソロプロジェクト「KOPY」を開始。同年、シンセノイズユニット「turtle yama」も結成し、2016年イギリス、2017年デンマークおよびドイツツアーを行う。



ミハエル・グレースナー (舞台美術家、舞台衣裳家)

Michael Graessner (Bühnen- und Kostümbildner)

1969年生まれ。ベルリンで舞台美術を学んだ後、ミュンヘン・カンマーシュピレ、フランクフルト劇場、フォルクスビューネ劇場などで舞台美術や衣裳デザインを手掛けている。ヴィラ鴨川滞在中は、観察した事柄をスケッチ等で描き留め、舞台芸術のように対話を行ないながら、新たな空間インスタレーションを創作する予定。mg.tr51.org



高嶺 格 (美術家、演出家)

Tadasu Takamine (Bildender Künstler, Regisseur)

1968年生まれ。90年代のダムタイプ参加も含め、パフォーマンス、映像、インスタレーション、舞台演出など多彩な活動を国内外で展開。現代社会の不条理をユーモアを交えて批評的に表現する。2013年DAADの招聘でベルリンに1年間滞在。2014年ベルリンHAU劇場の「Japan Syndrome」フェスティバルに参加。秋田公立美術大学准教授。



小崎 哲哉 (司会、構成)

Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン「REALKYOTO」発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌「ART IT」を創刊した。京都造形芸術大学研究員、同大学院講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。2014年冬、編著書「続・百年の愚行」を刊行。realkyoto.jp